



ようこそ弟くん～えいちゃんがお兄ちゃんになる日～

Yoshiyuki Murakami



3歳のえいちゃんは、大好きなパパとママに囲まれて、毎日元気いっぱいにご過ごしています。日常のいいリビングで積み木を重ねたり、絵本を読んでもらったりする時間は、えいちゃんにとって何より幸せなひとときでした。



ある日のこと、えいちゃんはママのお腹が少しずつ大きくなっていることに気づきました。まるで小さなボールが入っているかのように丸くなったお腹を、えいちゃんは不思議そうに見つめます。



ママはお腹を優しく撫でながら、「お腹の中にね、えいちゃんの弟がいるのよ。もうすぐお兄ちゃんになるんだよ」と教えてくれました。えいちゃんはびっくりして、まんまるな目をパチパチさせました。



「パパ、弟ってなぁに？」とえいちゃんが聞くと、パパは笑顔で答えました。「弟はね、えいちゃんと一緒に遊んだり、美味しいものを食べたりする、世界で一番大切な仲間だよ」。えいちゃんは少しだけ胸がワクワクしました。



でも、ベッドに入ると、えいちゃんの心に小さな不安が広がっていきました。「赤ちゃんが生まれたら、パパもママも僕のことを好きじゃなくなっちゃうのかな」と思うと、なんだか寂しくなって涙がこぼれそうになります。



次の日から、えいちゃんは急に甘えん坊になりました。「自分で食べたくない、あーんして!」とおねだりしたり、赤ちゃんみたいにハイハイをしたり。パパとママの愛情を確かめたくて、焼きもちを焼いてしまったのです。



そんなえいちゃんの不安な気持ちを受け止めた
パパは、えいちゃんを「たかい、たかい！」と高く
抱き上げました。そして、パパの大きな腕でえい
ちゃんをぎゅっと暖かく抱きしめました。





「えいちゃん、赤ちゃんが生まれても、パパとママのえいちゃんへの大好きは絶対に減らないよ。ずっとずっと、大切な一番だよ」とパパが優しく耳元で囁くと、えいちゃんの胸のモヤモヤはすーっと消えていきました。



すっかり安心したえいちゃんは、ママの大きなお腹にそっと手を当ててみました。「赤ちゃん、早く出ておいで。僕がお兄ちゃんだよ」と語りかけると、お腹の中でポンと小さく動いた気がしました。



もう不安なんてありません。えいちゃんは弟の誕生を今か今かと楽しみに待つようになりました。

「僕のミニカー、貸してあげるんだ」と微笑むえいちゃんの顔は、すっかり頼もしいお兄ちゃんの顔になっていました。